

令和4年度 学校自己評価結果

北海道歯科衛生士専門学校

評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

| 評価項目 | | 評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1 | コメント |
|------|---|---------------------------------|--|
| ① | 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか | ④ 3 2 1 | 本校は、高齢化の進展、医療の高度化・専門化等の環境の変化に十分に対応できる高度な知識、技能及び態度を身につけた高度専門職業人としての歯科衛生士を育成し、もって国民の健康福祉に寄与できる有為な人材を社会に送り出すことを目的としている。 |
| ② | 学校における職業教育の特色が表れているか | ④ 3 2 1 | 本校の特色である即戦力を有する人材を育成するために、より実践的な教育内容となるカリキュラムを組んでいる。また、昼間部、夜間部共に、臨地・臨床実習の時間数を十分に確保するとともに、臨床実習先と密に連携を図ることによって、個々の学生に合わせた実践的かつ効率的な実習ができるようにしている。 |
| ③ | 社会・歯科業界のニーズに合っているか | 4 ③ 2 1 | 現役歯科医師による講義等により、時代のニーズを意識した教育を行っている。一方で、将来的なニーズの変化についての対応については不十分な点もあるため、日本国内にとどまらず、世界的な視野での広範な情報収集を行う必要があると考えている。 |
| ④ | 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | ④ 3 2 1 | 学生に関しては、入学時のオリエンテーションにおいて学生便覧の説明等で周知するとともに、授業などでも繰り返し周知するようにしている。また、保護者等への周知については、特に配慮が必要な昼間部について学年ごとに保護者説明会にて周知するとともに、定期的に「北衛だより」を季刊で発行・送付している。 |

評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

| 評価項目 | | 評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1 | コメント |
|------|---|---------------------------------|--|
| ① | 目的に沿った運営方針が策定され、運営方針に沿った事業計画が策定されているか | ④ 3 2 1 | 学校の運営については、まず学園としての運営方針が理事会において策定され、この運営方針に沿って各学校における事業計画が作成されている。 |
| ② | 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。また、有効に機能しているか | ④ 3 2 1 | 「北海道歯科衛生士専門学校 会議等に関する細則」により、学校における意思決定機関として、校務運営全般および学生の身分等に関する事項について審議する「校務運営会議」が置かれている。また教職員間の共通理解の促進のために意見交換等を行う「教職員連絡会」が月1回、教員間における教務内容の共通理解のために意見交換等を行う「教員連絡会」が月2～3回開催されており、教職員間における情報の共有化を図っている。 |
| ③ | 人事、給与に関する規程等は整備されているか | ④ 3 2 1 | 人事及び給与に関する規程は、学校法人札幌青葉学園専任教職員就業規則、および学校法人札幌青葉学園給与規定において定められている。 |
| ④ | 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | ④ 3 2 1 | 学園においては理事会を中心とした意思決定システムを整備している。学校単位では意思決定機関としての校務運営会議がある。 |
| ⑤ | 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 4 ③ 2 1 | ホームページ等を中心に情報公開を行っており、職業実践専門課程にて求められているレベルは十分に満たしているが、さらに充実させる必要がある。なお、学生、同窓生や保護者については、令和2年度から「北衛だより」を季刊で発行・送付するとともに、令和3年度から保護者説明会を新入生、令和4年度からは在校生に対しても実施している。 |
| ⑥ | 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 4 ③ 2 1 | 平成29年度より、学内ネットワーク、学園内クラウドによる情報の共有、業務の管理、効率化を図っている。 また、教務事務システムを導入し、運用を開始している。 |

評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

| | 評価項目 | 評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1 | コメント |
|---|---|---------------------------------|--|
| ① | 教育理念等に沿ったカリキュラムの編成・実施方針等が策定されているか | 4 ③ 2 1 | 本校のカリキュラムは教育理念に沿って策定されている。昼間部・夜間部ともに令和5年度入学生から新たなカリキュラムが適用される。この新カリキュラムでは転籍を希望する学生にも対応しやすいカリキュラムとするなど、昼間部・夜間部ともに更なる改善が実施されている。 |
| ② | 一定の到達レベルを目標とした教育や学習時間の確保がなされているか | 4 ③ 2 1 | 座学、実習ともに十分な時間が確保されており、国家試験合格率は高水準を保っている。また、実技の面においても即戦力を育成すべく、内容、時間数ともに充実した学内外での実習計画を組み立てている。現在は従来の対面授業に戻しているが、オンラインツールを活用して今まで以上に効率的な教育ができるようにしている。 |
| ③ | 各学科のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 ③ 2 1 | カリキュラム改定により、履修時期の改善が必要な教科を見直し、類似した内容についての整理が出来た。また、令和5年度入学生から適用されるカリキュラムの科目の名称については、同じ内容にも関わらず昼間部・夜間部とで、若干異なっているものもあったが共通の名称に揃えた。 |
| ④ | 医療人の職業教育という視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | ④ 3 2 1 | 知識、技術、態度のバランスを考慮し、カリキュラムの編成を行っている。昼間部においては高校を卒業した若い世代が多数を占めるため、社会人、医療人としての心構えを育成できるようなカリキュラム、教育方法を実施している。夜間部においては限られた時間内に効率よく教育を行えるよう、実習先との連携、カリキュラム編成の工夫を行っている。 |
| ⑤ | 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | ④ 3 2 1 | 平成29年度から関連企業の役員等から成る教育課程編成委員会を年2回開催しており、委員会からの意見をカリキュラム見直しの参考とすることになっている。 |

評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

| | 評価項目 | 評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1 | コメント |
|---|---|---------------------------------|--|
| ⑥ | 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実技・実習等）がカリキュラムに組み込まれているか。 | 4 ③ 2 1 | 令和4年度は、コロナ禍でも歯科医院における臨床実習については、ほぼ実施できた。また、保育施設での臨地実習は一部再開することができたが、介護施設や、保健所での臨地実習は実施することができなかった。 令和5年度の介護施設実習は再開に向けて、現在施設側と協議中である。 |
| ⑦ | 授業評価の実施・評価体制はあるか | 4 ③ 2 1 | 平成29年度より学生による授業評価を行っており、専任教員だけでなく非常勤講師についてもその結果を報告し、授業の改善を図っている。 また、専任教員同士で互いの講義を自由に聴講する環境にあり、校内実習の際も複数の専任教員が関わって指導にあたっているため、実習内容や指導方法などについての意見交換を日常的に行っている。この風通しの良い環境を維持することで、より一層質の高い授業を目指す。 一方で、授業評価結果の活用については、今後とも検討していく必要がある。 |
| ⑧ | 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 ③ 2 1 | 平成29年度から学校関係者評価委員会を組織し、学校評価を定期的実施しており、委員会の意見を学校運営に反映させている。しかし、第三者評価については現在は実行していないので、検討する必要がある。 |
| ⑨ | 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | ④ 3 2 1 | これらはすべて「修学規程」に明記されており、規程を遵守している。 |
| ⑩ | 国家資格取得に関する指導体制を体系的に明確に位置づけているか | ④ 3 2 1 | 授業時間内で国家試験対策時間を確保し、指導に当たっている。国家試験合格率も高い水準を保っている。 参考資料：国家試験合格率 |

評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

| | 評価項目 | 評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1 | コメント |
|---|--|---------------------------------|--|
| ⑪ | 教育理念、教育目標の達成に向けて、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 4 ③ 2 1 | 昼間部に関しては、専任教員、非常勤講師ともに、要件を備えた教員を確保している。一方、夜間部の専任教員については、令和4年度は最低限必要な数の専任教員を確保し運営することができたが、安定した確保が難しい状況である。 |
| ⑫ | 関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどの取り組みが行われているか | ④ 3 2 1 | 医療法人仁友会等の実習施設の歯科医師をはじめ、大学等から優れた講師を招き、本校の教育に協力をいただいている。また専任教員については臨床経験豊富で学生教育に熱心な歯科衛生士を積極的に採用している。 |
| ⑬ | 関連分野における先端的な知識と技能等を修得するための研修や教員の指導能力育成など資質向上のための取り組みが行われているか | 4 ③ 2 1 | 外部研修の参加費用の助成等を行い、教員が教育に求められる能力等を高める為の環境を整えている。また、外部講師を招いて校内教員研修を行っているが、まだ不足気味であるので、さらに充実させる必要がある。 |

評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

| | 評価項目 | 評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1 | コメント |
|---|--------------------|---------------------------------|---|
| ① | 就職率の向上が図られているか | ④ 3 2 1 | <p>就職に関するサポート体制が整っており、就職を希望する者の就職率は開校以来100%である。</p> <p>参考資料：就職率</p> |
| ② | 国家試験合格率の向上が図られているか | ④ 3 2 1 | <p>令和4年度の国家試験では、昼間部・夜間部ともに全員が合格することができた。今まで以上に教員同士が細やかな情報共有を行うことで、個々の学生について指導すべき点が明確になり、また少人数学習でも様々な教員が関わることで、幅広く多方面からの指導を行った。今後も昼夜間の枠にとらわれず教員全体で学生のサポートを行い、高い合格率を持続していきたい。</p> <p>参考資料：国家試験合格率</p> |

評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

| 評価項目 | 評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1 | コメント |
|------------------|---------------------------------|--|
| ③ 退学率の低減が図られているか | 4 3 ② 1 | <p>昼間部は1年生のうちに退学してしまうケースが多い。理由としては勉強についていけない、友人関係がうまくいかない、入学前に迷っていた他の進路に進みたい、などもう少し色々楽しいことを経験することで乗り越えられるのにと残念に思うことが多かった。そのため、令和4年度に希望者に対して実施したゼミナールで、大変好評であったパーソナルカラーとメイクアップ講習を、令和5年度昼間部の新入生全員に対して、入学後早期に特別講義として実施する予定である。</p> <p>歯科の勉強だけでなく、友人や教員と交流できる機会を作って、1年生の早い段階から学校生活を楽しみながら過ごせるように努めている。また、昼間部各学年の保護者・保証人に対して学校生活についてのオンライン説明会を実施し、単位取得のために必要であることも実行できなくなってしまった際は、保護者・保証人とも連絡を取った上で解決に導くために様々な提案をしたり、精神的に辛いときは一旦休ませて体調を整えてもらうなどの対応をしている。それでも学校生活の継続が難しくなるケースも多く、保護者・保証人からのフォローも得られないことがあるため大変苦慮している。</p> <p>夜間部については金銭的に通学が困難になった、仕事との両立が辛い、などの理由で退学してしまう学生が見られた。金銭的なことに関しては総務に情報共有して、奨学金や給付金、学費の分割制度などを提案してもらい継続できるよう体制を整えている。</p> <p>また、毎年数人は精神疾患などを有している学生も入学しているため、日頃の学生の状況を教員全体で把握するよう努め、個別面談を定期的に行い、必要な場合には早期に保護者への連絡を行っている。今後も教職員連絡会などで、昼夜間の垣根なく全学生の把握、情報共有を行い、時代の風潮も考えながら教員サイドでも工夫していく必要がある。</p> <p>参考資料：年度別入学者・卒業生数推移、過去三年間の退学者数推移</p> |

評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

| | 評価項目 | 評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1 | コメント |
|---|---------------------------------------|---------------------------------|---|
| ④ | 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 4 ③ 2 1 | 実習先に就職する学生が多いため、教員が定期的に歯科医院を訪問し評価や近況の聞き取りを積極的に行っている。しかしそれ以外の卒業生については動向を把握しきれていないため、同窓会を通じた卒業生の勤務状況等を把握するためのシステム作りが必要である。 |
| ⑤ | 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 4 3 ② 1 | 卒業生の動向を把握するには同窓会との連携が重要になるが、コロナ禍で活動が中断されている状況である。今後は同窓会との共催で卒業生と在校生を対象とした研修会を定期的実施していくことを計画しており、その中で卒業生から意見を聞く場を設けて、積極的に教育活動に取り入れていきたい。 |

評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

| | 評価項目 | 評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1 | コメント |
|---|-------------------------|---------------------------------|--|
| ① | 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | ④ 3 2 1 | 各学級担任及び教職員全体での学生一人ひとりに対する細やかな就職指導体制が整備され、有効に機能している。また、教員による個別の指導、支援のほか、学校内・外部での就職説明会、外部講師によるマナー講習等も実施している。 |
| ② | 学生相談に関する体制は整備されているか | 4 ③ 2 1 | 昼間部では担任・副担任を配置して、個別面談を定期的に行っている。個別面談での情報や、日頃の学生の状況を教員全体で把握するよう努め、学生の悩みなどに対応している。夜間部においては現状担任1人であるが、教職員連絡会などで、昼夜間の垣根なく全学生の把握、情報共有を行いフォローを行っている。 |
| ③ | 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | ④ 3 2 1 | 日本学生支援機構の奨学金等、外部の支援組織の紹介、学納金の分割・猶予の制度を設け、学生一人ひとりに対応した支援を行っている。それに加えて平成31年度（令和元年度）より、学園独自の奨学金制度を整えて対象学生に支援を行っている。 |
| ④ | 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | ④ 3 2 1 | 学校教育法、学校保健安全法に基づいて、毎年春に健康診断を実施している。また、健康診断結果に基づいて、健康管理への指導、健康相談等を行っている。 |

評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

| 評価項目 | 評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1 | コメント |
|--------------------------------|---------------------------------|---|
| ⑤ 保護者と適切に連携しているか | ④ 3 2 1 | 令和4年度から昼間部各学年の保護者・保証人に対して「保護者・保証人説明会」をオンラインで実施し、教育理念、入学後の学校生活、臨地・臨床実習、国家試験対策など各学年に必要な情報を提供して説明を行った。また、定期的に「北衛だより」を発行し、保護者に送付することで学校生活についても把握してもらいつつ、学生の状況で注意すべき点が見受けられる際には早めに保護者と連携して解決を図っている。学生の生活環境、精神的な成熟度の個人差、多様性が広がる現代において、保護者との連携は学生指導の成否を分ける大きな要素であるため、今後も保護者との連絡体制を整え、家庭と学校で協力して学生をサポートできる環境を目指す。 |
| ⑥ 卒業生への支援体制はあるか | 4 3 ② 1 | 卒業生から要望があった場合に個別に対応しているが、組織的な体制は整っていない。歯科医院からは既卒生向けの求人問い合わせも多いため、コロナ禍で活動が中断してしまっていたが同窓会との連携など、既卒生に対する情報公開や支援をするための体制を整備していく必要がある。 |
| ⑦ 学生、卒業生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 4 3 ② 1 | 学生、卒業生のニーズを把握するような活動は現在行われていない。教員と学生の会話の中で改善できる点が見つかれば都度解決している。今後は学生、卒業生のニーズを把握するため、学生アンケートの実施や、同窓会で卒業生からの声を収集する機会を増やしていく必要がある。 |

評価項目の達成及び取組状況

(6) 教育環境

| | 評価項目 | 評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1 | コメント |
|---|------------------------------------|---------------------------------|--|
| ① | 教室・実習室等は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 ③ 2 1 | 学生数に対する教室・実習室等は教育上の必要性に十分対応している。しかし、学校設立から15年が経ち、今後は設備面の経年劣化も見込まれるため、施設設備の定期的な見直しと、計画的な更新を行い、充実させていく必要がある。 |
| ② | 学校外の臨地・臨床実習施設について、十分な教育体制が整備されているか | 4 ③ 2 1 | 臨地・臨床実習施設との連携の上、教育体制の充実を図っている。しかし、年々臨地・臨床実習施設数が増加していることから、一層の情報共有・連携を図るためのシステム作りを行う必要がある。 |
| ③ | 防災に対する体制は整備されているか | 4 ③ 2 1 | 定期的に消防設備点検（年2回）を行い、学生・教職員に対する防災・避難訓練（年1回）も実施している。今後は防災・避難訓練の内容を見直し、充実させていく必要がある。 |

評価項目の達成及び取組状況

(7) 学生募集

| | 評価項目 | 評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1 | コメント |
|---|-----------------------------|---------------------------------|--|
| ① | 高等学校等に対し、情報提供が十分であるか | 4 ③ 2 1 | <p>これまでは学園の広報室と学校教職員が連携して広報活動を行っていた。令和5年度からは広報活動を学校単位で行うことになったため、令和4年度の途中から移行期間として学校主体での広報活動に切り替えていった。</p> <p>高等学校等に対しては、資料や学生からの報告及び高等学校訪問にて随時説明を行っているが、今後は学校主体で活動することで、より緊密な情報提供ができるようになる。</p> |
| ② | 学生募集活動は、適正に行われているか | ④ 3 2 1 | <p>文部科学省・入学者選抜実施要項、北海道専修学校各種学校連合会・AO入試に関する自主運用基準に基づき、学生募集活動は適正に行われている。</p> |
| ③ | 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 4 ③ 2 1 | <p>令和4年度までは、パンフレット・ホームページ等において記載し、正確に伝えられてはいるものの、最新情報の更新に時間がかかっていた。</p> <p>そのため、令和5年4月1日にホームページの全面リニューアルを実施し、ホームページ更新業者との連絡も、これまでの学園広報室から学校担当者が直接行うように変更した。</p> <p>今後は最新情報を適宜更新し、より正確な情報を伝えられるようになることが見込まれる。</p> |
| ④ | 学納金は妥当なものとなっているか | ④ 3 2 1 | <p>学納金については学生募集要項に明記されており、学校運営経費や実習費、諸経費等を鑑みて適切な設定となるように努めている。なお、教材費は実費であり、入学後に学生から徴収している。</p> |

評価項目の達成及び取組状況

(8) 財務状況

| | 評価項目 | 評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1 | コメント |
|---|--------------------------|---------------------------------|---|
| ① | 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4 ③ 2 1 | <p>令和4年度は令和3年度に比べると入学者数が減少したが、令和5年度の入学者数は再び回復し、昼夜合わせて73名（定員80名）の入学者数を確保できた。</p> <p>今後も学生募集の充実による継続的な入学者数の安定を図っていくことに加え、退学者数の減少、および支出を見直して財務基盤の安定化を図る必要がある。</p> <p>参考資料：年度別入学者・卒業者推移</p> |
| ② | 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | ④ 3 2 1 | <p>予算、収支計画は、理事会、評議員会で審議され、作成されている。年度ごとの予算の執行内容は妥当である。</p> |
| ③ | 財務について会計監査が適正に行われているか | ④ 3 2 1 | <p>会計監査は、監査法人のもと、公正、適切に実施されている。</p> |
| ④ | 財務情報公開の体制整備はできているか | ④ 3 2 1 | <p>学園の財務情報についてはホームページ上の情報公開ページにて公開している。</p> |

評価項目の達成及び取組状況

(9) 法令の遵守

| | 評価項目 | 評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1 | コメント |
|---|-------------------------------|---------------------------------|---|
| ① | 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | ④ 3 2 1 | 専修学校設置基準、歯科衛生士学校養成所指定規則、歯科衛生士養成所指導ガイドライン等の法令、基準に基づき適正な運営がなされている。 |
| ② | 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 ③ 2 1 | 個人情報保護のセキュリティ対策については、開校当初から教職員間で注意喚起・情報の共有を図っている。 これに加えて令和2年度に制定された「学校法人札幌青葉学園個人情報の取扱いに関する規程」に則り、個人情報保護を強化するための体制整備を進めている。 |
| ③ | 自己評価の実施と問題点の改善を行い、公表しているか | ④ 3 2 1 | 自己評価結果、および学校関係者評価の結果については、ホームページ上の情報公開ページにて公開している。 |

評価項目の達成及び取組状況

(10) 社会貢献・地域貢献

| | 評価項目 | 評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1 | コメント |
|---|---|---------------------------------|--|
| ① | 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 4 3 ② 1 | 関連学会等の施設利用については審査の上許可している。また、講師依頼等がある場合にはできる限り要望に添うことにしているが、依頼自体が少ない。 |
| ② | 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 4 3 ② 1 | 授業内で行っている集団保健指導の媒体を用いて幼稚園・保育園への歯科保健指導ボランティアや高齢者施設での健康イベント補助のボランティアを行っていたが、コロナ禍においてはボランティア依頼がきていない状況で実行できていない。そのため、令和4年度より学校周辺のゴミ拾いボランティアを計画していたが、コロナ禍でのボランティア時間を捻出することができず実施できていない。学生もアルバイト等でボランティア活動を行う時間的余裕が少ないのが現状であるため、令和5年度は学内での時間を活用して取りくめるよう工夫していきたい。 |
| ③ | 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 4 ③ 2 1 | 中学生の職業体験学習等の申入れがあった場合には、積極的に受け入れている。また、公開講座などによる地域貢献は実施していないが、歯科衛生士の復職支援講座等の開催について検討しているところである。 |